

清泉女子大学
データサイエンス AI 教育プログラム
自己点検・評価報告書

2025 年度

清泉女子大学では、2022 年度より「清泉女子大学データサイエンス AI 教育プログラム」を実施している。2025 年度のプログラム実施について、清泉女子大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会にて自己点検・評価を行った結果は以下のとおりである。なお 2025 年度新入生より、従来の「文学部」ではなく「総合文化学部」および「地球市民学部」いずれかの所属となるため、以下は適宜学部別に記載する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>【文学部】</p> <p>本教育プログラムは、必修科目 2 科目と選択必修科目 2 科目の 4 科目から構成されている。従って、本教育プログラムを修得しようとする学生は、4 科目のうちの選択必修科目 1 科目を積極的・意識的に履修登録する必要がある。2025 年度は、選択必修科目のうち「現代社会と AI」で 37 名、「数理リテラシー」で 6 名、そのうち計 39 名の学生が本教育プログラムを修得した。</p> <p>【総合文化学部・地球市民学部】</p> <p>本教育プログラムは必修科目 3 科目によりそれぞれの学部で構成されている。原則、当該学部には所属する学生は本教育プログラムを修得することになる。2025 年度は一年次生のみが在籍をしており、「情報社会の安全と倫理」で 288 名、「データリテラシー基礎」で 259 名が単位を修得し、本教育プログラムの学びを進めている。</p>
学修成果	<p>【文学部】</p> <p>本教育プログラムを構成する 4 科目のうち、選択必修科目である「現代社会と AI」の履修登録者に占める単位修得者の割合が 84%、「数理リテラシー」については 86%となっている。従って、シラバス上の到達目標に鑑みた履修者の学修成果は概ね所定の水準に達していると判断できる。</p> <p>【総合文化学部・地球市民学部】</p> <p>2025 年度においては、本教育プログラムを構成する 3 科目のうち「情報社会の安全と倫理」、「データリテラシー基礎」の 2 科目を開講している。各科目の単位修得者の割合は、「情報社会の安全と倫理」で 88%、「データリテラシー基礎」で 89%となっている。従って、シラバス上の到達目標に鑑みた履修者の学修成果は概ね所定の水準に達していると判断できる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「現代社会と AI」の履修者へのアンケートにおいては、回答者（回答率 68%）の 8 割程度が「社会におけるデータ・AI の利活用」に関わる問題点・注意点への理解が深まったと回答した。また「データサイエンス入門」の履修者へのアンケートにおいては、回答者（回答率 86%）の 8 割以上が「生成 AI の仕組みや概要について理解が進んだ」とするなど、概ね本プログラム科目の内容を理解したという自己評価の様子が見て取れる。</p>
学修支援体制の構築	<p>本教育プログラムにおける学修を支援するため、2024 年 10 月より、数理教育アドバイザーによる相談（数量スキル・学びの相談日）を授業期間中に週 1 回開催し、学生からの質問や学修相談を受け付けた。同支援は個別指導のため、学生の関心やレベルに合わせて学修支援を行うことで授業内容の理解向上や授業外学修の促進につながった。</p>

全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>【文学部】</p> <p>2022 年度は、本教育プログラムを構成する 3 科目のうち選択科目については、履修者数が 9 名であったが、2023 年度は学期初めのガイダンス等で案内を行い、選択必修科目 2 科目の履修者が 48 名となった。さらに 2024 年度においても、学期初めのガイダンス等で学生に本教育プログラムについて周知し、選択必修科目 2 科目の履修者が 55 名となり、履修者数・履修率について一層の向上がみられた。2025 年度においては、同 2 科目の履修者が 51 名となりほぼ同水準を保った。</p>
2026 年度以降のプログラムの発展・改善	<p>本学における 2025 年度からの改組（新学部設置）に伴い、2022 年度から開始した本教育プログラムを発展・改善するため、2025 年度入学者からは、本教育プログラムの科目を必修化し、全学生がプログラムを修得するようにカリキュラム変更を行った。2026 年度は、総合文化学部と地球市民学部における本プログラムの 2 年目にあたるため、総合文化学部は「総合文化データサイエンス」、地球市民学部は「データと社会」の必修科目を実施する。</p>